

インターバンクの声（2016年8月15日）

予想から極端に乖離することはないだろうと思われていた米国の7月小売売上高と生産者物価指数がともに市場予想を大きく下回り、持ち直していた年内の利上げ観測が再び後退してしまった。ニューヨーク株式市場が昼過ぎまで売り優勢だったことや米国債利回りの低下もあって、102円割れから一気に100円80銭台まで円買いが進んだが、その後、株価が下げ幅を縮小したことや原油価格が小幅ながら反発したため、どうにか101円台に戻して週の取引を終えている。8月26日のジャクソンホールでの経済シンポジウムまで、主要通貨は現状の水準を維持するのではないかと思っていたが、米国では今週も住宅関連、消費者物価、鉱工業生産や景気先行指数の発表が予定されている。弱い内容の発表が続けば、シンポジウムでイエレンFRB議長が利上げについて慎重な発言をするのではとの予想が増してくる可能性もあり、米国以外からも円買いに繋がる材料が出て来れば、英国の国民投票の後に一時的に付けた99円相場とは違った、恒常的な100円割れ相場突入も、じきにあるのかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。